



吉野熊野国立公園 ストーリーテリングBOOK

～悠久の自然とそこで暮らす人々の姿を未来へと伝えるために～

目次

◆吉野熊野国立公園ストーリーのコンセプトイメージ・・・・・・・・・・	2
◆地域資源と聞き手をつなぐ「ストーリー」のねらい・・・・・・・・・・	6
◆基礎知識編：吉野熊野国立公園を知る	
吉野熊野国立公園の区域・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
吉野熊野国立公園の指定の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
吉野熊野国立公園の特色：山～川～海のつながり・・・・・・・・・・	9
吉野熊野国立公園の多彩な地域資源やトピック・・・・・・・・・・	10
(山岳エリア／河川エリア／海岸エリア)	
◆実践編：ストーリーを語ろう	
「ストーリー」を伝えやすくするために・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
吉野熊野国立公園のストーリーを語るコンセプト・・・・・・・・・・	15
ストーリーの語り方のバリエーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
ストーリーの例（時の脈／命の脈／心の脈）・・・・・・・・・・	20
参考資料：吉野熊野国立公園におけるストーリーの要素（例）・・・・・	23

幽玄の山々、深い溪谷、黒潮流れる南海
～森川海のつながりと悠久の歴史・文化に出会う～

吉野熊野国立公園では、悠久と一瞬が同時に感じられたり、
自然や生物、万物の絡まり合いがつくり上げる山～川～海の絶景に出会うことができます。
過去から現在まで多くの人が訪れ惹きつけられた想いが投影された風景です。

ここは、 時が「みえる」場所

折り重なる時間の層が感じられる
人の手では作ることができない風景があり、
それを次代に守り伝えていく営みがある



ここは、 命が「まじわる」場所

紀伊半島の山々川々海のつながりや水の循環
全ての生物がつながり、この地に生きる人々もそこに含まれている

ここは、 心が「うつる」場所

果ての遠い地であるにも関わらず人が惹きつけられる神秘性
自然の恵みと畏れを同時に感じる奥深さがある

※「映る」と「移る」のダブルミーニング
・自然信仰は人々が畏れ敬う心で自然を見て映し出されたもの
・絶景に魅了されて心が移る、惹きつけられる、人生が変わる体験



吉野山 下千本



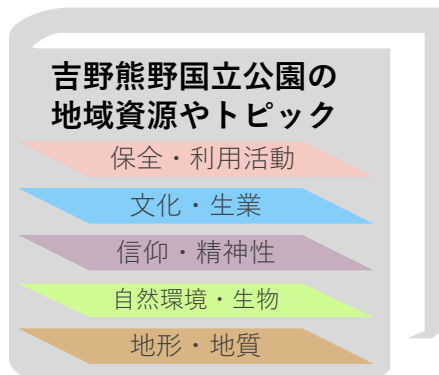
那智の滝 一の滝

地域資源と聞き手をつなぐ「ストーリー」のねらい

このブックは、国内外から訪れる方々に吉野熊野国立公園の魅力や価値を伝える考え方や内容を整理したツールです。魅力や価値を形づくる様々な地域資源を、テーマに沿ったストーリーとして伝えることで、吉野熊野国立公園ならではの忘れられない唯一無二の感動を体験し、深く理解することにつなげます。

- ✓ 吉野熊野国立公園をもっと好きになる。また訪れたくなる、深く知りたくなる。
- ✓ 吉野熊野国立公園をもっと大事にしたくなる。マナーを守り、貢献したくなる。
- ✓ 吉野熊野国立公園をもっと楽しくなる。人生が変わる感動、唯一無二の体験。
- ✓ 吉野熊野国立公園をもっと伝えたくなる。大切な人に、世界中の人に。

基礎知識編：吉野熊野国立公園を知る



実践編：ストーリーを語ろう

- ◆ 観光協会・DMOのみなさま
- ◆ ガイドのみなさま
- ◆ 宿泊事業者のみなさま
- ◆ 施設・店舗関係者のみなさま
- ◆ 飲食店のみなさま
- ◆ 交通事業者のみなさま
- ◆ 教育関係者のみなさま
- ◆ 一次産業関係のみなさま 等



吉野熊野国立公園の魅力や価値を形づくる 様々な地域資源や保全・利用の努力を知る

環境省では2023（令和5）年、国立公園に関するブランドプロミスを作成し、「多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。」という提供価値を打ち出しました。保護と利用の好循環を目指す一環として、国立公園の特徴・価値をわかりやすく整理したストーリー作りを進めています。

来訪者や地域住民の皆さんと吉野熊野国立公園との つながりを生むストーリーを紡ぎだす

- ・ 国立公園の魅力発信の参考に
- ・ ツアーやガイド内容の参考に
- ・ パンフレットやHP、プロモーションの参考に
- ・ 国立公園の保全につながる語りや活動の参考に
- ・ おもてなしの中で国立公園の魅力をご案内頂く参考に
- ・ 地域らしさが伝わる食事や商品開発、お店のしつらえなどの参考に
- ・ 地域学習や探求、SDG s等の授業の参考に

吉野熊野国立公園の区域

紀伊半島の中央から南部にかけて位置し、三重、奈良、和歌山の3県にまたがり、山岳、河川、海岸からなる変化に富んだ国立公園です。



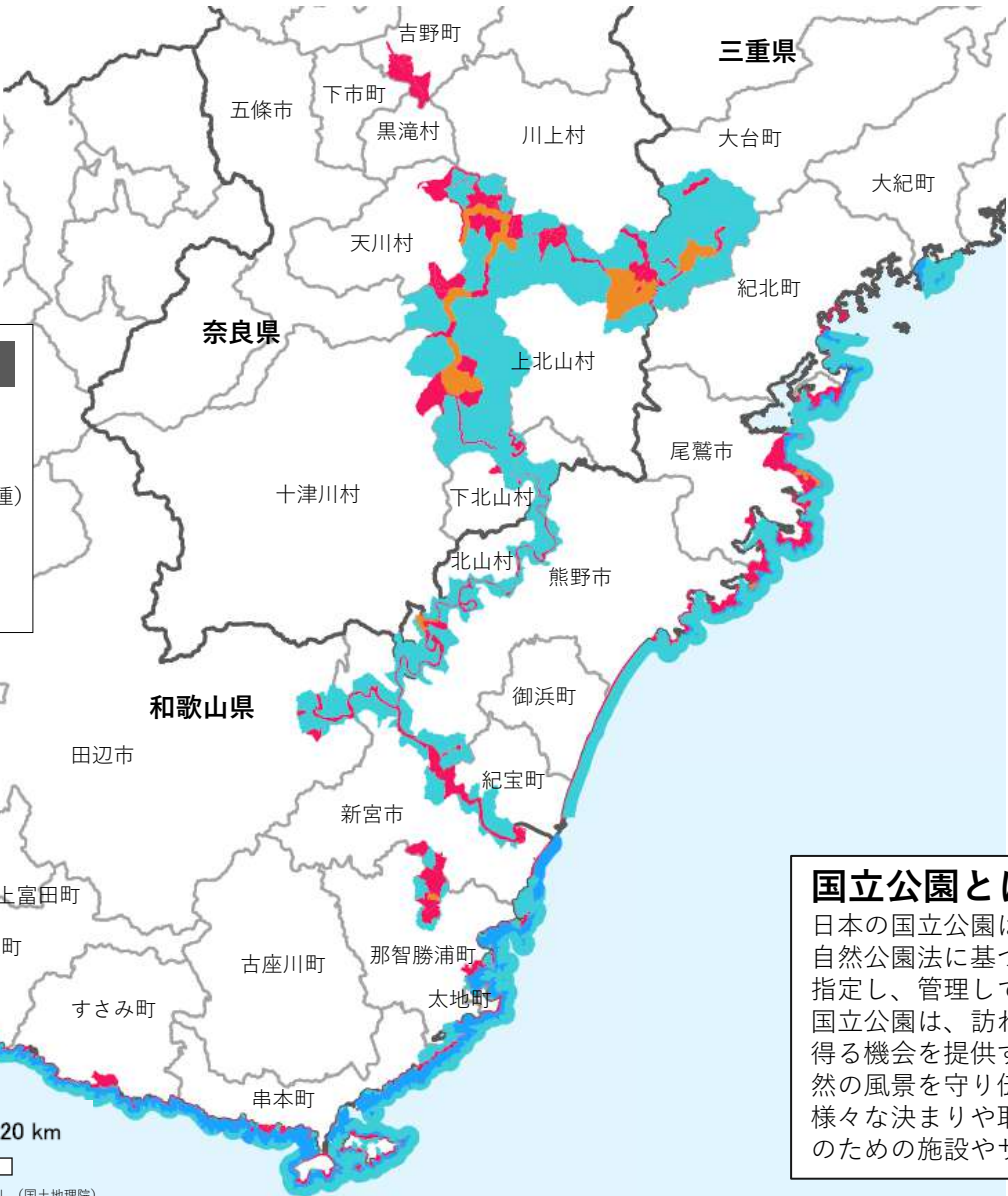
凡例

特別保護地区

特別地域
(第1種～第3種)

海域公園地区

普通地域



指定：1936（昭和11）年2月1日
面積（陸域）：61,604ha
（海域）：34,448ha

テーマ：
幽玄の山々、深い溪谷、黒潮流れる南海
～森川海のつながりと悠久の歴史・文化に会う～

その風景は、原生林と急峻な連峰、深い溪谷から河川、海岸までが連続した大規模な「陸域景観」と、黒潮の影響を受けた「海域景観」の両方を特徴としています。さらに、これらの自然の中で育まれた熊野信仰や修験道等の山岳宗教、それらと密接に関わる歴史文化に起因する「文化的景観」を併せ持つ国立公園です。

- 主な区域は以下から成っています。
- ✓ 近畿の屋根とも称される紀伊半島の中央部を南北に走る大峰山脈とその東側に位置する大台ヶ原、大杉谷
 - ✓ これらの山岳を源とし、激しく浸食しながら熊野灘に注ぐ熊野川、北山川の中・下流域
 - ✓ 熊野灘から枯木灘にかけての多様な海岸地形が見られる海岸線
 - ✓ 熊野信仰の古い歴史によって守られてきた那智山等

国立公園とは？

日本の国立公園は全国で35ヶ所あり（2025（令和7）年1月現在）自然公園法に基づき、日本を代表する自然の風景地として国（環境大臣）が指定し、管理しています。

国立公園は、訪れる人々が自然とふれあうことにより、深い感動や楽しみを得る機会を提供するとともに、将来世代も同じような体験ができるよう、自然の風景を守り伝えることを目的としています。このため、国立公園では様々な決まりや取組によって豊かな自然と生物多様性を守るとともに、利用のための施設やサービスが提供されています。

吉野熊野国立公園の指定の経緯

日本政府の国立公園制度の検討初期から、全国の候補地の一つとして、当初は大台ヶ原・大峰山脈の山岳を中心に検討や現地調査が実施されました。指定に尽力した岸田日出男（奈良県の林業技師）は、吉野群山の山々だけでなく熊野海岸の魅力併せるために熊野川～北山川でつなげることで、一つの国立公園として成立させることに考え至りました。そして、山～川～海の風景地がそろい、さらに文化的景観も併せ持つ特色を有する国立公園として、1936（昭和11）年2月1日に吉野熊野国立公園が誕生しました。その後一部拡張等を経て、さらに2015（平成27）年に田辺南部白浜海岸及び熊野枯木灘海岸の県立自然公園の区域が編入・拡張されました。

きしだ　ひでお
岸田 日出男　1890～1959（明治23～昭和34）年　吉野熊野国立公園の父(※)

山の調査にはオニ雅と呼ばれた伝説の強力岡田雅行がいつも同行した

・・・わが吉野熊野の地が昭和十一年二月一日政府より国立公園として指定された事は誠に慶賀に堪えない次第である。・・・(略)・・・わが吉野群山は内面的には種々偉大なる特徴を具備して居るが、その表現する風景は必ずしも傑出せりとはいいい難い。・・・話変って私は大正の晩年頃から昭和の初年にかけて熊野海岸を精しく見るに及んで、その豪快明朗なる大風景に多大の憧憬を抱かざるを得なくなった。そこでもしも吉野群山と熊野海岸とを併せるならば山の足らざるを償って余りある立派な国立公園が出来ると考えらるゝに立到った。そこで自然吉野群山と熊野をつなぐ地域を考慮する事が必要となってくる訳である。しかもこの連絡地たるや道路の如きでは駄目であり、山とか川とかの自然物で、しかも立派なる風景地を以ってせなければならないのである。

（「吉野熊野国立公園の決定を見て感慨深し」岸田日出男/『山嶽第十号』（1937（昭和12）年））

※奈良県大淀町HPで90年前の貴重な映像を含むアーカイブ資料を公開
https://www.town.oyodo.lg.jp/contents_detail.php?frmid=923#link-1



■吉野熊野を語る偉人の言葉や和歌など

みなかた　くまぐす
南方 熊楠　1867～1941（慶応3～昭和16）年
博物学者、民俗学者

そのころは、熊野の天地は日本の本州にありながら和歌山などとは別天地で、蒙昧（もうまい）といえば蒙昧、しかしその蒙昧なるがその地の科学上きわめて尊かりし所以（ゆえん）で、小生はそれより今に熊野に止まり、おびただしく生物学上の発見をなし申し候。（1925（大正14）年1月25日「履歴書」）



出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

吉野熊野の奥深い自然は昔から多くの人たちを惹きつけてきました。

まきの　とみたろう
牧野 富太郎　1862～1957（文久2～昭和32）年
植物学者

吉野群山たる大峰山脈や大台ヶ原山は・・・(略)・・・即ち天斧を以て削り成したるが如き大岩壁や天際（てんさい）から奈落の底までも落ち込むかと思はる程の大瀑布を始め、鬼手怪腕の大巨人がその神鑿（しんさく）を揮（ふる）ったやうな天然の大彫刻が随所（ずいじょ）にあって千様萬態の妙技（みょうぎ）を現すのみならず、その総てが幾十万年間かの風雨に曝されて美事なる暗灰色をしている、この岩石類こそ他には見られない実に国土の精華であって・・・(略)・・・
（大阪朝日新聞大和版　1920（大正9）年8月21日号記事「帝大講師牧野富太郎氏談」）



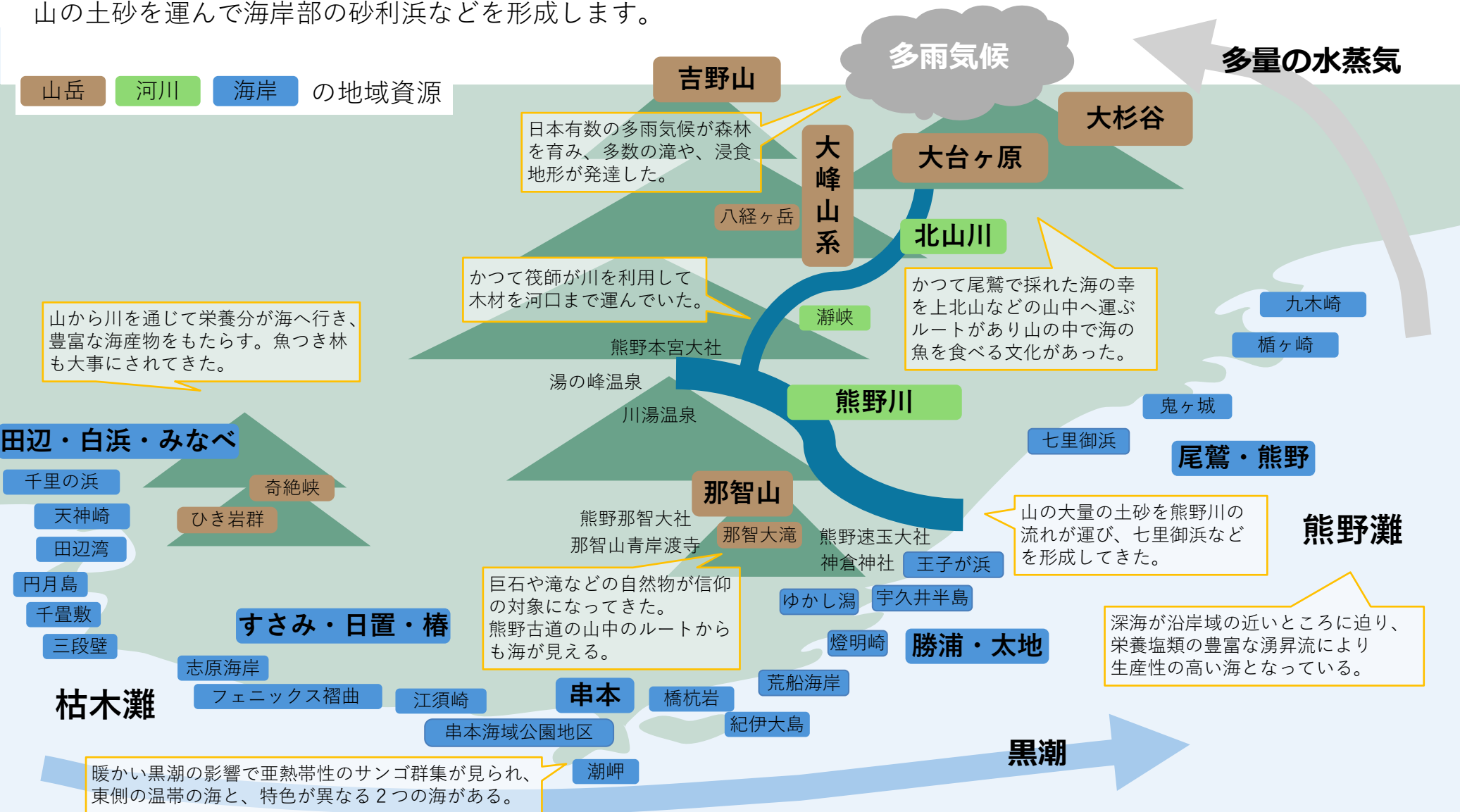
出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

もろともに　あわれと思え　山桜
花よりほかに　知る人もなし　行尊
大峯での修行中に偶然山桜を見かけて詠んだ歌

屏風にや　心を立てて　思ひけん
行者は還り　稚児は泊りぬ　西行
行者還岳の屏風立の險しさを歌った

年月を心につけてし吉野山
花の盛りを今日見つけるかな　豊臣秀吉
吉野の桜を歌ったもの

ダイナミックな大地の形成過程を示す変化に富んだ景観が見られ、山岳地域はわが国でも有数の多雨地帯です。黒潮が流れる海がもたらす多量の水蒸気が雨を降らせ、川を下る水の流れが激しく浸食して渓谷をつくり、山の土砂を運んで海岸部の砂利浜などを形成します。



吉野熊野国立公園の多彩な地域資源やトピック

：国立公園と重複する他の様々な制度や仕組みによる取組の例示

吉野熊野の様々な地域資源や魅力は、大地の形成過程に由来する地形や地質、そこに多量の雨や黒潮の暖かさの影響を受けて成立した類まれな山・川・海の自然環境、自然に対する畏敬の念が育んだ熊野三山や吉野・大峯、修験道に代表される信仰や精神性、林業や漁業など自然と共に生きてきた人々の文化や生業など、互いにつながり合っています。これらの価値や魅力を次の世代に伝えるための保全や利用の活動も色々な形で行われています。



山岳エリアの地域資源やトピック

豊かな自然林の険しく奥深い山々は信仰の対象となり、果てしなく広がる紀伊山地の森は人々の生活の場となってきた

本国立公園の中心的な山域は紀伊半島のほぼ中央を南北に走る大峰山脈と、吉野山、大台ヶ原及び大杉谷からなり、近畿の最高峰である八経ヶ岳（標高1,915m）を含む広大な山岳地帯です。

大台ヶ原は年間降水量がおよそ 3,500mmに達する国内有数の多雨地域で、ブナやトウヒ等の原生的な森林を育んでいます。また、那智山の周辺地域は禁伐林などもあり、特に学術的にも貴重な那智原始林も見られます。

保全・利用活動



大台ヶ原は貴重な自然が残るかつては人が足を踏み入れにくい地域でしたが、林業、製紙業、電源ダム開発などの様々な開発がされるようになり、大規模伐採から守ろうという自然保護の取組の歴史ある場所です。現在では、伊勢湾台風による倒木やニホンジカの増加等の影響による森林環境の変化に対応するための自然再生事業の取組が進められています。また、日本有数のヤマザクラの名所である吉野山では桜が古くから信仰の証として植樹されており、手入れをする桜守（さくらもり）によって今なお大切に守られています。

文化・生業



山々から得られる豊かな恵みが活用され、地域の産業としては林業が中心で、古くから吉野杉などの産地として知られる紀伊半島の森から運ばれた木材が江戸城や伏見城の建立でも活躍したとされ、良質な木材を各地へ供給してきました。また、ウバメガシ等を利用した備長炭なども特徴的な産品であり、山中には炭焼窯やその跡が見られます。酒や味噌などの文化を支えた桶や樽の材料となる樽（クレ）を生産したり、キハダの樹皮を原料に生産された妙薬の陀羅尼助（だらにすけ）など、様々な文化や生業があります。

信仰・精神性



約1,300年前に開かれた大峰山系は、修験道の発祥の地・山上ヶ岳をはじめ名峰が連なり、平安時代初期の密教の隆盛を契機として、自然崇拜思想と結びついた信仰登山（登拝）が盛んで、古来より神霊や祖霊の住む聖地として守られています。那智山は落差133mの名瀑那智の滝を擁し、熊野信仰の中心地の一つである熊野那智大社、青岸渡寺をはじめ往時をしのばせる熊野古道など多くの史跡、文化財がみられます。山岳宗教は心身を浄める滝行や水垢離など水との関係も深く、前鬼の裏行場には美しいエメラルドグリーンの淵の垢離取場（こりとりば）があります。

自然環境・生物



多量の雨を受けて成立するこの地域の森林環境では、植生は非常に豊かで、ブナ林等の落葉広葉樹林を主体に、常緑広葉樹林から亜寒帯針葉樹林に至る多様な森林が成立しています。多様で複雑な気候や地形によって育まれた、固有種や遺存種、隔離分布するものなど特徴的な植物種も多く見られます。動物相も、これらの豊かな森林を背景に、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンザル等の大・中型哺乳類をはじめ数多くの動物が生息しており、わが国屈指の野生動物の生息地となっています。

地形・地質



「近畿の屋根」とも言われる大峰山系は標高約1,500mを超える切り立った山々が南北に渡って連なり、大台ヶ原、大杉谷を含む広大な山岳地帯は我が国有数の多雨地帯で、急峻な斜面と深いV字谷が発達した壮年期の山岳地形を示しています。そのうち大台ヶ原は、古生層、中生層の堆積岩からなり、標高1,500m前後に広大な平坦面をもつ我が国ではまれな非火山性の隆起準平原です。那智エリアは壮年期の山地で浸食されにくい火成岩体を取り残されたものであり、那智大滝は2つの地質体の浸食の違いによって形成された急崖を流れ落ちる名瀑となっています。

河川エリアの地域資源やトピック

熊野川は溪谷を削り土砂を運び、移動や生活の大事な動脈であり
時には災害をもたらす畏れの対象でもあった

熊野川は、降水量の豊富な大峰山脈や大台ヶ原を源として山岳部を大きく蛇行しつつ激しく浸食し、中流域の北山川峡谷及び瀬峡を形成し、河口近くまで深いV字谷となって熊野灘に注いでいます。多量の土砂が運ばれ、熊野川河口付近では、礫浜が弓形に延々と連なる七里御浜が形成されています。また、大杉谷は地形が急峻なため自然環境が保たれており、大滝や淵、大岩壁と原生林の自然の造形美を見ることができます。

保全・利用活動



かつて熊野川では、木材や生活物資などの輸送で多くの船が利用されていましたが、陸上交通の発達により昭和30年代には姿を消しました。現在、風の力を利用して川を行き来する川舟「三反帆（さんだんぼ）」を復活させる取組が行われ、観光客も利用できる乗船体験を通じて船大工の技術や川の文化を残そうという活動がされています。また、大きな水害を繰り返す厳しさもある中で、熊野川の美しい景観を残していくため、流木撤去や清掃活動等も実施されています。

文化・生業



熊野川エリアでは林業が盛んで、かつては 筏師（いかだし）が切り出した木材を組んで筏を作り、熊野川河口の新宮まで運んでいました。筏師は、熊野川の急流を櫂（かい）や棹（さお）を巧みに使用しながら下ることが求められる危険な職業でもあり、また筏師が徒歩で戻った道は現在でも「筏師の道」と呼ばれています。特に熊野川上流部の北山川の良質な材は「北山材」と呼ばれ、現在は「観光筏下り」として北山村で筏下りを体験することができます。川は水運として活用され様々な物資を運ぶ動脈となりました。

信仰・精神性



熊野本宮大社の社殿は、かつては現在の数倍の規模で熊野川・音無川・岩田川の合流点にある中洲にあり、江戸時代までは橋がなく参拝に訪れた人々は川を歩いて渡る「水垢離（みずごり）」を行って身を清めて訪れていました。明治の大洪水を受けて現在の場所に移され、旧社地は大斎原（おおゆのはら）として残されています。ここから熊野川河口に位置する熊野速玉大社までは、平安時代に上皇や貴族たちが舟で下る「川の参詣道」として利用され、現在も素朴な木造の小船で行く川舟下りを追体験することができます。

自然環境・生物



熊野川流域の植生は、大部分はスギ、ヒノキの人工林によって占められていますが、カシ類等の常緑広葉樹林が崖上等に残されています。熊野川の魚類相は豊かであり、また河川水位の増減によって攪乱を受ける川岸に生育する紀伊半島の固有種の植物も見られます。大杉谷は直線距離8.4kmで1,400mもの高低差がある急峻な谷で植生の移り変わりを見ることができ、低標高域からシイ、カシ中心の常緑広葉樹林、ツガを中心とした針葉樹林、高標高域にはブナを中心とした落葉広葉樹林が見られます。

地形・地質



熊野川流域は、砂岩、頁岩を主とする新第三紀層と熊野酸性岩類からなり、ほぼ垂直な崖と深い淵が連なる瀬峡や、下流域では柱状節理をもつ急崖が連続する等、変化に富んだ優れた景観を形成しています。基石や硯などに珍重される那智黒石は熊野市で産出する黒くて硬い緻密な堆積岩です。大杉谷は清流宮川の最上流部で、チャート及び砂岩からなる地質が激しい浸食を受けて大小無数の滝や断崖絶壁の発達したV字谷地形を有しており、岩壁と滝が織りなす「シシ淵」を始めとする美しい景観を呈しています。

海岸エリアの地域資源やトピック

変化に富んだ海岸地形と黒潮の恵みを受けた暖かい海が豊かな生態系を育み、人々の生活の糧をもたらしてきた

海岸部は紀伊半島中南部の海岸線約630kmに及び、大小の湾が複雑に入り組んだ海岸や、南北約 25 kmにもなる砂礫海岸の七里御浜を始め、海食海岸、砂州、多島海等、多様な海岸地形が見られます。社寺林、島嶼等を中心に自然度の高い暖地性植物群落が残されており、アカウミガメの産卵地等も含まれます。また、黒潮の影響を色濃く受けているため、サンゴ群集を始めとする亜熱帯性の海洋生物が生息・生育し、色鮮やかな海中景観が見られます。

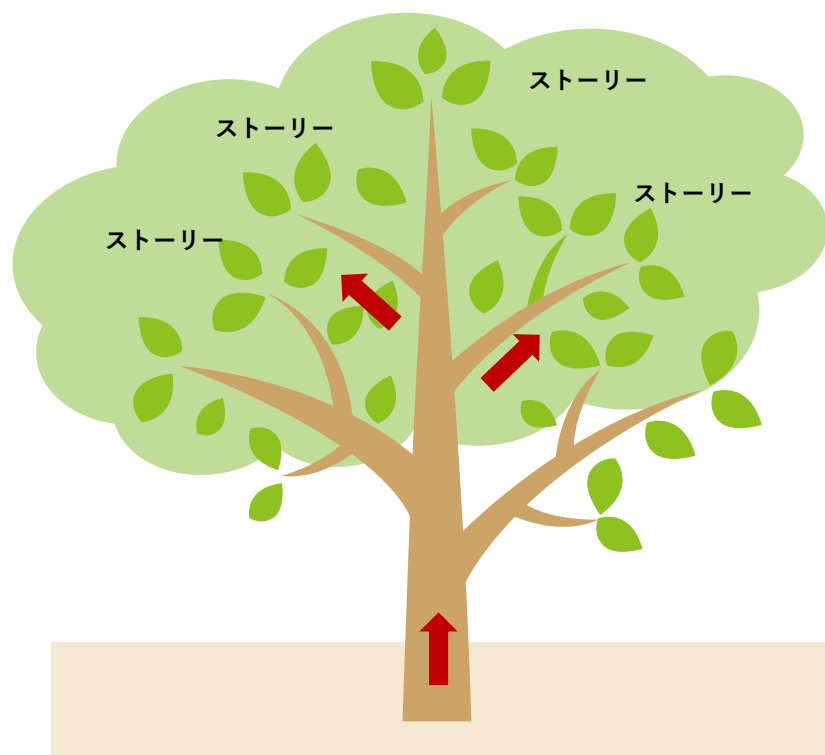
保全・利用活動		黒潮の大蛇行の影響による水温変化などによって海域の環境は大きく変化しており、磯焼け（藻場の急速な減少）が多く起こり、里海保全や藻場再生の取組が行われています。サンゴ群集への影響も見られ、冬季の低水温や夏季の高水温による白化現象や、オニヒトデやサンゴ食巻貝（ヒメシロレイシガイダマシ等）による被害も発生しており、その対策としてモニタリング調査やサンゴ保全の活動が行われています。また、海岸漂着ゴミなどのビーチクリーンの活動、ウミガメの産卵地の調査等も各地で行われています。
文化・生業		黒潮の恩恵を受けるこの海域では、温暖多雨な気候、河川に含まれる森からの栄養分、深海からの湧昇流に含まれる豊富な栄養塩類などにより、マグロ、カツオ、ブリなどの魚類や、イセエビやイカなどの水産物が豊富です。大敷（おおしき）と呼ばれる定置網や、南下して適度に脂の落ちたサンマを使ったさんま寿司・丸干しなどの文化や郷土食が見られます。クジラ類も豊富で太地、三輪崎、古座等は、中世以降、近海捕鯨の基地として知られており、和歌山県・熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」が文化庁の日本遺産に認定されています。
信仰・精神性		本地域の海上交通の要地としての重要度は古来より高く、黒潮による文化や漁法の伝播を始め、複雑な海岸線や小島の海食洞などには熊野水軍などの物語も多く残されています。すさみ町の稲積島は古くより神の島とあがめられ、島内に弁天宮が祀られており、島名の由来は一説によると神武東征の際に住民が稲束をこの島に積んで献上したと伝えられています。海岸部の森は川を通じて栄養を供給し周辺の海域の豊かさを保つのに重要な魚つき林として大切にされてきました。
自然環境・生物		海洋生物の種数が豊富で、海域は岩礁、藻場等が分布する浅海域や干潟、砂浜、礫浜等の潮間帯を中心に海洋の浄化能力に優れ、海洋生物の産卵や育成に欠かせない生息域（ナーサリーエリア）になっています。特に、串本沿岸海域の世界最北のテーブルサンゴ群集の生態系はラムサール条約湿地に登録され、千里の浜は本州有数のアカウミガメの産卵地となっています。温暖多雨な海岸地域では植物がよく繁茂し、薪炭林として利用されるウバメガシ等の常緑の二次林が多く見られ、天然林の照葉樹林が島嶼や急崖地等に残されています。
地形・地質		紀伊半島の南側には海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込むことで形成された付加体、前弧海盆堆積体、火成岩体の3つの特徴的な地質体が分布しています。世界最大級だったと言われる熊野カルデラの火山活動の名残も受けて、長い海岸線沿いに橋杭岩、鬼ヶ城等の奇岩や岩礁等の特異な景観が見られます。平野が乏しく、七里御浜沿いや河口部にわずかにみられる他は、壮年期の急峻な山地が海岸まで迫っています。激しい波浪の影響と隆起や沈降により、潮岬などの海岸段丘のほかリアス海岸、海食崖、多島海景観など、複雑で変化に富んだ海岸地形が見られます。

「ストーリー」を伝えやすくするために

吉野熊野国立公園の全体像はとても広く多様な地域資源があり、その魅力について、一つ一つの知識を伝えるだけでなく、来訪する方々に興味を持ってもらい楽しくストーリーとして伝えるには工夫が必要です。

国立公園の指定から90年近い歴史のある成り立ちや経緯を含めて、どのように次代につないでいけばよいのか、利用を通じた保全の重要性も知ってもらい、聞き手が分かりやすく「自分ごと」として感じられるようなコンセプトを検討し、一人一人の皆さんが語る具体的なストーリーとの関係を木のモチーフになぞらえ整理しました。

■地域資源からストーリーへ



枝や葉

一人一人の皆さんが語る具体的なストーリーを、たくさんの「葉」のように捉えることができます。地域ごと、山・川・海のフィールドごとなどのまとまりある内容は「枝」にあたります。

地域の皆さんが語る具体的な「ストーリー」がたくさんあり、地域の魅力がより伝わっていきます

幹

吉野熊野国立公園らしさを表現できる
共通認識となるコアな魅力（コンセプト）

**→ストーリーを分かりやすく伝え、
「自分ごと」として感じてもらうために重要**

根

国立公園の指定以前から脈々と受け継がれてきた吉野熊野地域の自然・歴史や文化に根ざした風土、気質などを含む土台が育んだ様々な地域資源にあたる部分です。

吉野熊野国立公園のストーリーを語るコンセプト

ストーリーの 幹

吉野熊野国立公園では、悠久と一瞬が同時に感じられたり、自然や生物、万物の絡まり合いがつくり上げる山～川～海の絶景に出会うことができます。過去から現在まで多くの人が訪れ惹きつけられた想いが投影された風景です。

「時の脈」で語る
ここは、時が“みえる”場所

折り重なる時間の層が感じられる
人の手では作ることができない風景があり、
それを次代に守り伝えていく営みがある

「命の脈」で語る
ここは、命が“まじわる”場所

紀伊半島の山～川～海のつながりや水の循環
全ての生物がつながり、この地に生きる人々もそこに含まれている

「心の脈」で語る
ここは、心が“うつる”場所

果ての遠い地であるにも関わらず人が惹きつけられる神秘性
自然の恵みと畏れを同時に感じる奥深さがある

※「映る」と「移る」のダブルミーニング

- ・ 自然信仰は人々が畏れ敬う心で自然を見て映し出されたもの
- ・ 絶景に魅了されて心が移る、惹きつけられる、人生が変わる体験

「時の脈」で語る
ここは、時が“みえる”場所

折り重なる時間の層が感じられる
人の手では作ることができない風景があり、
それを次代に守り伝えていく営みがある

吉野熊野国立公園で見られる様々な風景は、数千万年以上前からの地球の活動を経て作られてきた地形の成り立ち、その上に数万年以上かけて成立してきた自然環境が土台となっています。また、そこに千年以上の長い時の中で育まれてきた巨石や大木など自然そのものを畏れ敬う心で向き合う精神性、数百年に渡って営まれてきた林業や漁業などの生業とともに継承されてきた文化や歴史を感じることができます。

古くから奥深い自然の中に人が入り込んで暮らしてきた地域であり、昭和の時代にブームが起きた観光の隆盛とともに、近年の人間活動の影響による自然環境の変化に対し、数十年かけて保全や再生する努力も行われています。

■ストーリーの例

山岳

- 大台ヶ原のトウヒ林は、地球の気候変動の生き証人と言えます。約2万年前の最終氷期には、全国各地にトウヒやコマツガ等の亜高山性針葉樹が分布していましたが、現在、分布の南限である紀伊半島では、大台ヶ原と大峰山系の標高1,600m以上の区域にのみ残っています。
- 神倉神社の御神体である巨大なゴトビキ岩は、険しい崖の上にあり、火成岩が少しずつ風化を受け現在の丸みのある形になったと考えられています。熊野の神が初めて地上に降臨した場所とされ、毎年2月に勇壮な「御燈祭り」が行われます。



河川

- 瀨峡の溪谷美を眺める際、その地形の変化が1,500万年もの時をかけてどのように出来てきたのかを想像します。また、かつては筏師が行き交い、また昭和の時代にプロペラ船やジェット船で人々が観光を楽しんだ様子を経て、現在の瀨峡が語りかけてくるものがあります。



- 長い年月をかけて山々に降った水の流れが大地を浸食して深いV字谷が形成され、神秘的な絶景の大杉谷が形成されました。



海岸

- フェニックス褶曲は、海底で起こった大地の変動を地上で見られる貴重な場所で、世界的にも有名です。ぐにゃりと曲がった地層を目の前で見て、地球が持つ圧倒的なエネルギーを感じることができます。



- 海中に大小40余りの奇岩が列を成す橋杭岩は、やわらかい堆積岩の地層にマグマが入り込んで固まり、その後の波の浸食で硬い部分が残ったものです。周辺に崩れて点在する岩（津波石）は、巨大地震による大津波によって運ばれたと考えられています。

「命の脈」で語る ここは、命が“まじわる”場所

紀伊半島の山～川～海のつながりや水の循環
全ての生物がつながり、この地に生きる人々もそこに含まれている

吉野熊野国立公園のフィールドに広がる幾千もの険しい峰々、多量の雨とともに大地が深く刻まれ清流が流れる溪谷や滝、雄大で力強い川の流れ、暖かい黒潮の恵みをもたらす海は、多くの命を育んでいます。山岳の標高が高いブナ・トウヒの森から海岸沿いのシイ・カシ林までの多様な森林環境や豊かな河川の環境には多くの動植物が生息・生育し、海岸では藻場や磯の自然海岸が続き、亜熱帯性の鮮やかなサンゴ群集の海中景観も見られます。山と川と海が近くにあり、人々の衣食住の生活も自然の恵みを活用して営まれてきた一方で、自然の厳しさや災害の怖さと隣り合わせで生きてきた場所でもあります。

■ストーリーの例

山岳

- ・ 海拔0mから1,915mまでの環境が広がり、温暖な気候の植生から、亜寒帯のトウヒやシラビソまでを見ることができます。



- ・ 交通網が無かった時代、長い日数をかけて歩いてくる熊野詣は時に命懸けでした。
- ・ 大峯奥駈道など修験の修行は特に厳しい山岳環境で険しい道が続きます。
- ・ 南の海の彼方にあるという観音浄土を小船で目指す捨身行である補陀落渡海（ふだらくとかい）が行われていた記録もあります。

河川

- ・ 柿の葉寿司は元々、熊野のサバが使われており、尾鷲付近で揚げられたサバが塩漬けされ、約1週間かけて吉野の山々へ運ばれました。山から海への商品としては、キハダの樹皮を原料とした妙薬である陀羅尼助（だらにすけ）等が運ばれました。
- ・ 川は水運の動脈として様々な物資が運ばれ、筏で出荷された木材は江戸のまちの木造建築を支えました。木の桶や樽の材料となる樽（クレ）なども多く生産され、酒樽などとして盛んに利用されました。



海岸



- ・ 神島は南方熊楠が保全活動を展開した島で、亜熱帯性の森林に覆われ温暖多湿を好む粘菌類などの森林性の生物も豊富に生育していました。昭和天皇の行幸で熊楠が御進講したことは有名です。



- ・ シイノトモシビタケは黒潮の影響を受ける海岸沿いのスダジイなどの大木があるところに生育する発光キノコであり、「黒潮が運んできた命の不思議」です。

- ・ 九木崎の原生林は海岸付近に照葉樹や巨木の森が残り、その合間から美しい熊野灘が見え、古くから魚つき林として守られてきました。ブリ漁や廻船で栄えた九鬼町は九鬼水軍のゆかりの地とも言われ、ブリ大敷網を見下ろす魚見小屋なども残っています。

「心の脈」で語る ここは、心が“うつる”場所

果ての遠い地であるにも関わらず人が惹きつけられる神秘性
自然の恵みと畏れを同時に感じる奥深さがある

※「映る」と「移る」のダブルミーニング

自然信仰は人々が畏れ敬う心で自然を見て映し出されたもの / 絶景に魅了されて心が移る、惹きつけられる、人生が変わる体験

吉野熊野国立公園のエリアに広がる自然は、いにしえの時代から、遠方にも関わらず、見たことのない景色を求めて、多くの人々が訪れてはその地に自分の心を重ね合わせてきた場所です。自然が作り出した険しい峰々や滝、窟（いわや）などでの厳しい修行を行う修験道の発祥の地でもあります。神仏習合の熊野信仰では身分や性別なども関係なく全ての人を分け隔てなく受け入れる寛容さを備えており「蟻の熊野詣」と呼ばれ、同じく古くから聖地とされた吉野は「金峯山詣」が行われました。多くの神話や言い伝えが生まれ、語り継がれてきた地でもあり、特徴的な祭祀も多く見られます。

吉野熊野国立公園の景色は人生が変わるような体験をもたらさうる場であり、その奥深い自然の険しさ、神秘性、豊かさや得体の知れなさに対して、畏れや敬いの念を持ちながら人々が接してきたことを読み取ることができます。

■ストーリーの例

山岳

- 雨や霧が多く発生する大台ヶ原は、妖怪「一本たたら」の棲む山として長い間畏れられていました。大自然に感じる神秘や畏敬の心が反映されていたのでしょう。
- 那智大滝は滝そのものが大事な御神体であり、熊野那智大社の別宮である飛瀧神社は神様をお祀りする社はなく、御瀧を直接拝礼しています。青岸渡寺の三重塔と那智大滝を合わせて臨む景色も神仏習合を象徴しています。



河川

- 自然の美しさと怖さは紙一重です。熊野本宮大社の大斎原はかつて熊野川の中洲にあった社が流された明治の水害の大きさも伝えながら、その雄大さを大鳥居とともに伝えています。



- 熊野速玉大社の10月例大祭では、熊野川にある御船島と御旅所へ神輿と神幸船（しんこうせん）で渡御します。九隻の早船が競走する御船祭りが行われ、夕刻、ほのかな松明の灯りで御旅所神事が行われます。



海岸

- 昔は今以上に海に出る事は命懸けで「船底一枚、下は地獄」と言われていました。航海の安全祈願や大漁祈願をし、ここまで来れば大丈夫という安心感を得るような場所（目印になる島や岬）には神様が祀られている事が多いです。



- 楯ヶ崎は海にそびえ立つ巨大な楯のような、高さ約80m、周囲約550mの迫力ある柱状節理の大岩壁です。日本書紀では神武天皇上陸の地と伝えられ、平安時代の歌人・増基法師は「神のたたかひたる処とて、楯をつらねたるやうな巖どもあり」と詠んでいます。

ストーリーの語り方のバリエーション

吉野熊野国立公園の魅力や価値を語るときに、同じ場所やトピックでも、様々な語り方ができます。
また、この自然の価値を大切に守るためのマナーやルールを意識してもらう内容を含めていくことも効果的です。

例：
修験道の大峯奥駈道の舞台となる大峰山脈の山々



「時の脈」で語る
ここは、時が“みえる”場所

大峰山脈は、長い年月をかけて急峻な斜面と深いV字谷が発達した壮年期の山岳地形が見られます。修験道の発祥の地である山上ヶ岳があり、役行者にはじまる修験道は1300年もの古い歴史があり、明治初期には修験道廃止令によって一度途絶えるなどの苦難もありましたが、現在まで大事な文化を伝えています。



「心の脈」で語る
ここは、心が“うつる”場所

山林抖擻（さんりんとうそう）の奥駈修行で険しい山を歩いていると、普段の悩みや考えが頭に浮かんでいますが、一心不乱に山歩きをすると悩みや煩悩が自然と一体化され、心が清められます。奥駈修行は大変だが、心を見つめ直し擬死再生して生まれ変わることができます。体験しないと分からない、見えない力がある場所です。



「命の脈」で語る
ここは、命が“まじわる”場所

大峰山系は「近畿の屋根」と呼ばれる奥深い山岳地域で、山上ヶ岳、近畿最高峰の八経ヶ岳、釈迦ヶ岳等の1,500mを超える名峰が連なり、標高に応じて移り変わる美しい自然林を見ることができます。多くの動植物が息づく場所であり、修験道において全ての生き物には神仏になりうる性質があるとする「山川草木悉皆成仏（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）」の自然観が実感されます。

「時の脈」で語る ここは、時が“みえる”場所

大台ヶ原の樹々の移ろいから見えてくる困難と希望

大台ヶ原自然再生事業

シカ対策

3500mm超の多雨地域



・大台ヶ原ビジターセンター
大台ヶ原の自然や文化、利用方法などを紹介
・大台ヶ原登録ガイド
研修を受けた登録ガイドが自然解説を提供

大台ヶ原は日本有数の多雨地域で、標高1695mの日出ヶ岳を最高峰とする台地状の山域です。熊野灘からの湿った風が吹きつけ多量の雨をもたらし、ブナやトウヒなどの森林環境を育んでいます。しかし、伊勢湾台風などによる森林環境の変化やニホンジカの食害による影響などを受けて、植生が大きく劣化しており、苔むす森を再び取り戻すための自然再生の取組が進められています。

長い年月で作られた生態系や景観を取り戻すには大きな苦労がありますが、植生を保護する防護柵に囲まれたエリアでは稚樹が育って回復途上にある様子を見ることができ、希望を感じます。時を経て姿を変える自然を実感することができる場所です。

古式捕鯨の勇壮な歴史を偲ばせる熊野灘の大パノラマ

古式捕鯨

山見台

狼煙場跡

日本遺産



・太地町立くじら博物館
鯨の生態や捕鯨の資料展示、水族館やショーも見られる
・燈明崎山見台跡
太平洋を一望できる狼煙場跡や復元された山見台がある

黒潮が流れる熊野灘の沿岸域はクジラ類が多く回遊し、太地は約400年の歴史を持つ古式捕鯨発祥の地として知られています。複雑なりアス海岸と背後に熊野の険しい山々がある地理的条件から、鯨を見張り発見できる高台の岬や狼煙場跡が残ります。梶取崎、燈明崎などの展望地は山見の要所だった場所で、断崖絶壁と岩礁が続く美しい眺めを楽しめる遊歩道があります。

捕鯨は地域の人々が役割分担して行う一大産業で、「一頭で七郷が潤う」と言われたほどの富をもたらした一方で、命懸けの危険も伴いました。人々と鯨の結びつきの深さを感じさせる鯨の供養碑や鯨踊りなどの伝統芸能・祭りが今も伝えられています。

七里に渡って続く長い浜の景色が時代を交差させる

砂礫海岸

浜街道

ウミガメ



・熊野古道伊勢路
伊勢と熊野を結ぶ道で江戸時代以降盛んに歩かれた
・紀宝町ウミガメ公園
ウミガメの飼育・展示や保全活動を実施

七里御浜は熊野灘に面して約22kmに渡って続く日本で一番長い砂礫海岸で、熊野川上流の様々な岩石が下流に運ばれつるつるに磨かれた丸い小石の砂利が堆積して形成されています。かつて熊野詣をする人々には、伊勢から熊野へ向かう伊勢路の「浜街道」として利用されました。また、那智山の青岸渡寺から始まる西国三十三所を目指す巡礼者が多く歩いた「巡礼道」でもあります。

江戸時代の「西国三十三所名所図会」の挿絵には七里御浜を歩く旅人の姿が描かれています。今も松本峠から見下ろす浜の姿は緩やかな弧を描いており、当時と変わっていません。また、アカウミガメが上陸・産卵する浜辺としても知られています。

数千万年の時の重なりを直接見られる縞模様の地層

地層

海食洞

ジオサイト



・南紀熊野ジオパークガイド
魅力豊富な様々なジオサイトの案内を実施
・道の駅「志原海岸」
志原海岸に行く際の拠点

志原海岸は横に折り重なった美しい縞模様の地層が特徴的な海岸で、約1800～1500万年前の浅い海に砂と泥が交互に積み重なってできたやわらかい地層が波の浸食により削られたものです。南紀熊野ジオパークのジオサイトとしても重要です。

海岸の西には、鳥毛洞窟と呼ばれる2つの大きな穴があいた巨大な洞窟（海食洞）があり、干潮の時にのみ行くことができる、自然が作り出した美しい洞窟です。落石や崩落の恐れがあるため、洞窟の中への立ち入りは控える必要があります。長い年月をかけてできた造形ですが、今も崩れ続けており、目の前で見えている景色は偶然成立しているもので、実は一瞬のものかもしれません。

「命の脈」で語る ここは、命が“まじわる”場所

どこまでも広がる山々の豊かな生物と恵みを得る人々

森林生態系 生物多様性 食文化 山・海・川・里の幸の交流



紀伊山地の広大な山岳地帯は、標高に応じて多様な森林が成立し、ブナ林等の落葉広葉樹林を主体に、常緑広葉樹林から亜寒帯針葉樹林に至る環境が移り変わる様子が見られます。植生は非常に豊かで、ツキノワグマやニホンカモシカなどの哺乳類、鳥類、昆虫類など、わが国屈指の野生動物の生息地となっています。

人々もまた山から恵みを得て暮らしてきたこの地域は、食文化も豊かです。トチの実やイタドリなどの山菜のほか、柿の葉寿司は、熊野灘から運ばれたサバを塩で締め、抗菌・防腐効果のある柿の葉、里の米を合わせた人々の生活の知恵を感じられる郷土料理です。

・西大台利用調整地区
特に自然性の高いエリアで立ち入りに事前手续が必要
・柿の葉寿司、トチ餅など
先人の知恵の山の食文化を今も楽しむことができる

西側に亜熱帯、東側に温帯の2つの海が同居する串本

黒潮 サンゴ ラムサール条約 気候変動



本州最南端の潮岬付近の串本沿岸海域は、リアス地形の海岸と透明度の高い浅い海が広がり、温帯域にもかかわらず、暖かい黒潮の影響を受けて亜熱帯性の造礁サンゴ群集を中心とする生態系が成立した特異な海域です。125種類以上のサンゴ類が生息し、また美しいテーブルサンゴが広がる独特の景観は、昭和45年に日本で初めての海中公園（国立公園の制度：現海域公園地区）の指定される理由の一つとなりました。

しかし、近年ではオニヒトデやサンゴ食巻貝による食害や、黒潮の蛇行による低水温、温暖化による高水温などの影響を受けて、サンゴの消失や白化などが起きています。海の環境は刻々と変化しており、繊細なサンゴはその様子を教えてくれる存在です。

・串本海中公園
串本の海を再現した水族館、海中展望塔や観光船がある
・スノーケル、ダイビング
色鮮やかな海中景観を間近で観察できる

風を利用し恵みを運んで生活を支えた熊野川の三反帆

熊野川 川の参詣道 水運



・三反帆遊覧
貴重な三反帆の文化や乗船を体験できる
・熊野川川船センター
熊野川舟下り、瀬峡めぐりを運航している

熊野川は、かつて熊野三山を結ぶ「川の参詣道」として利用され、また生活物資の輸送路として水上交通が盛んでした。流域では川と結びついた生活文化が栄え、周辺で採れた木材や炭、石炭などの物資の輸送に川舟が多く利用され、人々が往来しました。

舟運は昭和30年代にはその役割を終えましたが、熊野川独特の川舟を船大工の技術とともに次代に残そうと、風をとらえて進む三反帆（さんだんぼ）の川舟が再興されました。幅1メートル弱の帆布を3枚掲げ、強すぎる風は帆の間から逃し、海からの風を利用して上流にゆっくり遡りながら進むこともできます。川面を滑るように進む三反帆の姿は、風の力をうまく使い生活に取り入れていた、現代では忘れがちな川の文化を伝えてくれる貴重な体験です。

山から川を通じて保たれる海の豊かさを将来につなぐ

藻場 里海 黒潮の恵み 魚つき林



・田辺湾
新庄エリアでは海藻ヒロメなど里海保全の取組を実施
・神島
南方熊楠が保護した照葉樹林の島で天然記念物指定

紀伊半島の沿岸には、黒潮との位置関係による海水温などの条件に応じた様々な海藻類が分布し、特に川が流れ込む岩礁帯は、周辺の山や森、川や里などからの豊富な栄養が供給され、生産性の高い豊かな海域となっています。海の生物にとっては海、川、山のつながりが重要で、先人たちは「魚つき林」として海岸沿いの森林を守りながら利用してきました。

近年は、気候変動等の影響により海藻類が消失する磯焼けが深刻化している場所も多く、藻場の再生などの取組が行われています。また、人の手が適度に入ることで生産性や生物多様性の豊かさが保たれている「里海」の維持・再生を目指した活動も行われています。

「心の脈」で語る ここは、心が“うつる”場所

※「映る」と「移る」のダブルミーニング

自然信仰は人々が畏れ敬う心で自然を見て映し出されたもの / 絶景に魅了されて心が移る、惹きつけられる、人生が変わる体験

桜に魅入られる人々と次代につなぐ「桜守」

御神木 ヤマザクラ 桜守



・吉野山保勝会

大正5年から吉野山の桜や史跡・名勝等を保護し継承

・一目千本

中千本、上千本が見渡せる桜の絶景

吉野山は日本有数のヤマザクラの名所で、春には麓の下千本から山頂の奥千本にかけて桜色に染まります。この桜の歴史は修験道の開祖である役行者が金剛蔵王権現をヤマザクラの木に刻んだことに始まり、それ以来、御神木の献木として1,000年以上にわたって守り伝えられてきました。現代では、吉野山保勝会の3名の「桜守」が桜を育成・植樹し、一年中手入れを行っています。美しい桜を通して、今に続く信仰を支えてきた人々の心に触れることができます。

西行法師は吉野の桜に魅せられて和歌を詠み、豊臣秀吉が盛大な花見をしたことでも知られ、多くの人の心を魅了してきた風景です。

大自然の厳しさにふれ心身がよみがえる修験道

修験 擬死再生 自然信仰



・那智山青岸渡寺

熊野修験の拠点であり行者堂が150年ぶりに再建された

・修験道の体験

天川村、吉野町などで大峯修行体験等を実施

紀伊山地は、古くから神々のしずまる神聖な地域と考えられてきました。修験道は吉野と熊野の間の険しい山々を行く大峯奥駈道などを修行の場とし、山林抖擻（さんりんとうそう）を通じて大自然に触れ自己を見つめ直す擬死再生の場としています。熊野の大自然で六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）を清浄し、心身をリフレッシュすることで、現代人が忘れがちな自然への感謝や心の在り方をふりかえる場所として大切にされています。

また、世界遺産「那智原始林」は熊野那智大社の禁伐林で通常は立入禁止となっており、那智大滝を含め「那智四十八滝」と呼ばれる修験道の行場となったたくさんの滝があります。

自然の造形が作り出した伝説や今に伝わる祭祀

巨岩・奇岩 磐座（いわくら） 海賊 神事



・熊野古道語り部友の会

鬼ヶ城や花の窟などを含む伊勢路のガイドを実施

・獅子岩

高さ25mの巨大な獅子が海に向かって咆哮する姿をした奇岩

鬼ヶ城は、隆起や風化、熊野灘の荒波の浸食によって造り出された大小の海蝕洞が約1.2km続く凝灰岩の大岸壁で、見る人を圧倒する自然の造形となっています。桓武天皇の頃、この地に隠れて熊野の海を荒らし廻り、鬼と恐れられた海賊多娥丸（たがまる）を、天皇の命を受けた坂上田村麻呂が征伐したという鬼退治伝説が残っています。

また、近くにある花の窟（いわや）は、神々の母であるイザナミノミコトの墓所で、社殿を持たず、熊野灘に面した高さ45mもの巨大な磐座（いわくら）に直接拝礼する霊場となっています。年に2回の例大祭として、約170mの大綱を御神体の窟頂上から境内へ渡す「御綱掛け神事」が行われています。

「みんなの大事な預かり物」を将来へつなぐ人々の心

岩礁帯 ナショナル・トラスト運動 山川海のつながり



・天神崎の自然を大切にする会
昭和49年よりナショナル・トラスト活動を実施

・南方熊楠顕彰館

南方熊楠が遺した研究資料を保存・公開

田辺湾の北に位置する天神崎は、日和山などの緑豊かな丘陵部と、干潮時には平らな岩礁が広がり、森・磯・海が一体となった豊かな生態系を形成しています。南方熊楠も保護すべき景勝地として挙げた天神崎は、昭和49年に開発計画が持ち上がった際、日本におけるナショナル・トラスト運動の先駆けの地となりました。自然保護を呼びかける人々の想いが全国の人々の共感を呼び、以降、自然観察教室や清掃活動、土地の取得などの活動が50年以上にわたり続いています。

※ナショナル・トラスト運動：美しい自然や歴史的建造物を市民の寄金で買いとり保全していく運動のこと。日本語訳すると「みんなの大事な預かり物」という意味。

山岳

河川

海岸

保全・利用活動

- ・ 吉野の桜守
- ・ 大峯奥駈道などの山道の維持管理
- ・ 大杉谷入山協力金
- ・ 大峰山系植生復元施設
- ・ 大台ヶ原パークボランティア、大台ヶ原登録ガイド
- ・ 大台ヶ原自然再生事業
- ・ 西大台利用調整地区

- ・ 筏師と北山川観光筏下り
- ・ 船頭の後継者育成
- ・ 木造船の維持
- ・ 川の文化の継承
- ・ 河川管理と水質保全

- ・ 天神崎ナショナルトラスト
- ・ 藻場の磯焼け対策と再生（カジメなど）
- ・ サンゴの保全活動（オニヒトデ駆除、サンゴ食巻貝の駆除）
- ・ 黒潮の大蛇行、サンゴ白化（低水温等）の調査
- ・ 海岸漂着ゴミ、ビーチクリーン

文化・生業

- ・ 林業
- ・ めはり寿司、とち餅、柿の葉寿司
- ・ 備長炭、炭焼き窯
- ・ 樽のクレ生産
- ・ 宿坊、山小屋

- ・ 水運、舟運の利用
- ・ 熊野川遊覧（観光川舟、かつてのジェット船等）
- ・ 瀬峡
- ・ 筏流し、筏師、筏師の道
- ・ 三反帆や船大工の技術
- ・ 鮎のなれ寿司
- ・ 川湯温泉（仙人風呂等）

- ・ マグロ漁、ブリ漁、定置網、魚見小屋
- ・ カツオのひき縄漁（ケンケン漁）
- ・ 鯨漁、古式捕鯨
- ・ 狼煙場、熊野水軍
- ・ サンマ寿司
- ・ イセエビ漁（エビ網）
- ・ ひとはめ（ヒロメ）寿司

信仰・精神性

- ・ 熊野三山、熊野古道
- ・ 大峯奥駈道、修験道
- ・ 吉野山の桜（御神木）
- ・ 那智原始林（社寺の禁伐林）、那智大滝
- ・ 大台教会（自然信仰）
- ・ 一本たたら

- ・ 熊野本宮大社の大斎原（熊野川の中洲）
- ・ 熊野速玉大社の御船祭
- ・ 熊野川下り（川の参詣道）
- ・ 禊場としての水垢離、湯垢離
- ・ 湯の峰温泉（つぼ湯等）

- ・ 熊野古道大辺路、伊勢路（浜街道）、紀伊路
- ・ 花の窟（巨石信仰、お綱掛け神事）
- ・ 弁天様
- ・ 禊場としての潮垢離

自然環境・生物

- ・ ブナ林等の夏緑樹林、針広混交林等が成立
- ・ 常緑照葉樹林（スダジイ、ウバメガシ等）
- ・ 豊かな動物相
- ・ 水源地の森
- ・ 天然記念物（オオダイガハラサンショウウオ、カモシカ、大峰山系のトウヒ・シラビソ林、オオヤマレンゲ等）

- ・ 豊かな水生生物
- ・ 溪流に適応した固有・特有の植物（キシウギク、ドロニガナ、カワゼンゴ、キイトラッキョウ等）
- ・ 天然記念物（キリクチイワナ等）
- ・ ユノミネシダの分布北限（温泉蒸気の熱や成分）

- ・ 黒潮がもたらす温暖な気候、亜熱帯性の植生
- ・ 温帯と亜熱帯の2つの海
- ・ 世界最北のサンゴ群集
- ・ アカウミガメの上陸、産卵
- ・ クジラ類の回遊
- ・ 豊富な魚種数、南方系の魚類
- ・ 魚つき林、藻場

地形・地質

- ・ 近畿最高峰（八経ヶ岳）
- ・ 年間3500ミリ超の多雨が浸食した地形
- ・ 大台ヶ原の隆起準平原、大蛇峠
- ・ 大峰山系（三重滝、垢離取場）
- ・ V字谷、滝
- ・ 巨岩、奇岩（ゴトビキ岩等）
- ・ ひき岩群（ケスタ地形）

- ・ 河川による浸食、土砂運搬、堆積
- ・ 垂直に切り立つV字渓谷（瀬八丁等）
- ・ 変化に富んだ雄大な渓谷美
- ・ 災害をもたらす自然の脅威
- ・ 大杉谷（シシ淵、千尋滝、堂倉滝）

- ・ 本州最南端（潮岬）
- ・ 砂利、砂礫海岸、サンゴ礫の浜、潟など
- ・ 多様な海岸景観（褶曲、節理、陸繋島等）
- ・ 海岸林と直線的な隆起海岸（七里御浜等）
- ・ 奇岩、海食崖（橋杭岩、楯ヶ崎、鬼ヶ城等）
- ・ 熊野カルデラの痕跡
- ・ 生痕化石、泥岩岩脈

吉野熊野国立公園について知るヒント

■吉野熊野国立公園を紹介する施設

大台ヶ原ビジターセンター（奈良県上北山村）
http://kinki.env.go.jp/nature/odaigahara/shisetsu/shisetsu_index.html

宇久井ビジターセンター（和歌山県那智勝浦町）
<http://www.ugui-vc.jp/>

本州最南端潮風の休憩所（和歌山県串本町）
<https://www.town.kushimoto.wakayama.jp/kanko/shionomisaki/shiokaze.html>

■吉野熊野国立公園に関連するWebサイト

吉野熊野国立公園ウェブサイト
<https://www.env.go.jp/park/yoshino/>

国立公園に行ってみよう（吉野熊野国立公園）
<https://www.env.go.jp/nature/nationalparks/list/yoshino-kumano/>

■吉野熊野国立公園プロモーション動画

吉野熊野国立公園 プロモーション動画
<https://www.youtube.com/watch?v=jXr2hfEIX1M&t=303s>

吉野熊野国立公園 SNS用ショート動画
<https://www.youtube.com/watch?v=xQozVcs6WH4>

吉野熊野国立公園 VR動画
<https://youtu.be/DqWZAE0io9o?si=mo7bJAYbaBPH6gpO>

国立公園公式Youtubeチャンネル内
再生リスト「Yoshino-Kumano National Park」
<https://youtube.com/playlist?list=PLjjkoykN2SgOJ7iQ0Uzfny1SPNlnW74&si=eSFwYBIhxG98ybJ7>

【参考文献】

- ・吉野熊野国立公園（熊野灘・熊野川・那智地域）指定書及び公園計画書
- ・吉野熊野国立公園（和歌山県海岸地域）指定書及び公園計画書
- ・（吉野地域の公園計画については、以下の該当箇所を参照）
吉野熊野国立公園公園計画書（平成18年1月）〔4 参考事項〕抜粋
- ・熊野地域管理計画書
- ・田辺地域管理運営計画書
- ・吉野地域管理計画書

※上記の文献は下記ウェブサイトで閲覧できます
<https://www.env.go.jp/park/yoshino/intro/>

■地域の情報を伝える施設

天川村洞川エコミュージアムセンター（奈良県天川村）
<https://www.vill.tenkawa.nara.jp/tourism/spot/5166/>

山上ヶ岳歴史資料館（奈良県天川村）
<http://www.dorogawaonsen.jp/sightseeing/191/>

大杉谷登山センター（三重県大台町）
<https://www.oosugidani.jp/>

三重県立熊野古道センター（三重県尾鷲市）
<https://kumanokodocenter.com/>

紀宝町ウミガメ公園（三重県紀宝町）
<https://umigame.info/>

太地町立くじらの博物館（和歌山県太地町）
<https://www.kujirakan.jp/>

串本海中公園センター（和歌山県串本町）
<https://www.kushimoto.co.jp/>

南紀熊野ジオパークセンター（和歌山県串本町）
<https://nankikumanogeo.jp/>

すさみ町立エビとカニの水族館（和歌山県すさみ町）
<https://ebikani-aquarium.com/>

京都大学白浜水族館（和歌山県白浜町）
https://www.seto.kyoto-u.ac.jp/shirahama_aqua/

南方熊楠記念館（和歌山県白浜町）
<https://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/>

世界遺産熊野本宮館（和歌山県田辺市）
<https://www.city.tanabe.lg.jp/hongukan/>

和歌山県世界遺産センター（和歌山県田辺市）
<https://www.sekaiisan-wakayama.jp/>

南方熊楠顕彰館（和歌山県田辺市）
<https://www.minakata.org/>

吉野熊野国立公園ストーリーテリングBOOK
～悠久の自然とそこで暮らす人々の姿を未来へと伝えるために～

令和7年3月 近畿地方環境事務所
吉野熊野国立公園管理事務所

アドバイザー：久保 竜太（一般社団法人サステナビリティ・コーディネーター協会）
岡本 岳大（株式会社 wondertrunk&co.）

写真提供：大淀町教育委員会、角田 華子、一般財団法人 奈良県ビジターズビューロー、
一般社団法人 南紀串本観光協会、南紀熊野ジオパークセンター、
森 雅史（順不同、敬称略）